

ひょうごJCC

兵庫県協同組合連絡協議会機関誌



2025. 10. 31

兵庫JCCは兵庫県内の生協、JA(農協)、JF(漁協)、JForest(森林組合)の協同組合組織相互の連絡提携、共通課題の実行および全国、海外の協同組合運動との連携を図ることを目的に、1984年7月7日に設立されました。

「人とひとの心がふれあう、暮らし良い兵庫を目指して一協同が息づくまちづくり」を基本理念として、共通行動目標の実践に取り組んでいます。

1. 協同組合活動スナップ 1
2. 第 103 回国際協同組合デー・兵庫県記念大会を開催 2
3. 第 103 回国際協同組合デー・兵庫県記念大会
兵庫 JCC 宣言 3
4. IYC2025 ～協同組合への理解を広めよう～ 4

Contents

5. 第 2 弾 まるごと協同ツアーを開催 5
6. 今協同組合では一各協同組合からの報告ー
JA(農協)／生協 6
JForest(森林組合)／JF(漁協) 7
7. 協同組合運動に生きる
兵庫県生活協同組合連合会 専務理事 福井 宣昭 8

● ● ● 協 同 組 合 活 動 ス ナ ッ プ ● ● ●

「つながる力で能登を笑顔にアクションinいしかわ」に参加



生協

9月2日～3日に「つながる力で能登を笑顔にアクションinいしかわ」が石川県金沢市で開催され、兵庫県生協連から6人が参加。未だに復旧が進んでいないエリアもあり、被災地でがんばる人たちにどう寄り添っていくかを考える機会となりました。

フォロワー1万人達成キャンペーン



JA(農協)

JA兵庫中央会では、現在、Instagramで「祝！フォロワー1万人達成感謝をギュッと！神戸ビーフプレゼントキャンペーン」を実施しています。①本会のアカウント(@ja_hyogo)をフォローし、②キャンペーン投稿に「いいね」、③県内JAのアカウントを1つ以上フォローすることで神戸ビーフが当たるチャンス！是非ご参加ください。

兵庫のおさかな図鑑



JF(漁協)

日本海と瀬戸内海、それぞれの浜のお魚を紹介する「おさかな図鑑」。魚の旬や美味しい食べ方・調理方法などあなたの知りたい情報が満載です。ぜひ上記QRコードからご覧ください。

宍粟市勤労者ソフトボール大会に出場



JForest(森林組合)

9月7日にしそ森林組合が宍粟市スポーツ協会主催の勤労者ソフトボール大会に出場しました。今年の結果は1勝1敗でした。普段は見せない仲間の姿に盛り上がり、職員同士の絆も深まりました。

●編集発行

兵庫県協同組合連絡協議会(兵庫JCC)
Hyogo-ken Joint Committee of Co-operatives
生協・JA(農協)・JF(漁協)・JForest(森林組合)

●兵庫JCC事務局

兵庫県生活協同組合連合会 TEL(078)894-3207
兵庫県農業協同組合中央会 TEL(0794)87-0062
兵庫県漁業協同組合連合会 TEL(078)940-8013
ひょうご森林林業協同組合連合会 TEL(078)599-7461

第103回国際協同組合デー・兵庫県記念大会を開催

国際協同組合デーは、協同組合の価値や役割について広く社会に知ってもらうことを目的とした国際的な記念日です。毎年7月の第1土曜日に世界の協同組合の仲間が心をつなげて協同組合運動の発展を祝い、協同組合の理念である相互扶助や民主的な運営、社会的責任の重要性を広めるためのさまざまなイベントや啓発活動が行われます。本県では、毎年、国際協同組合デーの前日に兵庫県記念大会を開催しています。

今年は7月4日に、神戸市立東灘区文化センターうはらホールにて「協同の力で未来を拓く（ひらく）」をテーマに第103回国際協同組合デー・兵庫県記念大会を開催しました。県内の生協・JA（農協）・JF（漁協）・JForest（森林組合）の組合員や役職員あわせて286人が参加しました。

第1部の記念式典では、主催者を代表して、兵庫県漁業協同組合連合会の田沼政男代表理事会長が、「2025年は2012年に続き2回目の『国際協同組合年』であり、『協同の力で未来を拓く』の実現に向け、協同組合同士で理念を深め、更なる発展につなげよう」とあいさつしました。また、来賓として、兵庫県農林水産部の守本真一部長、神戸市経済観光局の椿野智弘農政担当局長、一般社団法人日本協同組合連携機構の伊藤治郎常務理事からご挨拶をいただきました。

続いて、生活協同組合コープこうべの中野朋子理事が「第103回国際協同組合デー・兵庫県記念大会 兵庫 JCC 宣言」を力強く読み上げ、満場一致で採択されました。

第2部では、社会活動家、こども食堂センター・むすびえ公共政策アドバイザーの湯浅誠氏が「ごきげんな地域づくりと居場所～こども食堂と私たちの地域・社会～」と題して、こども食堂をはじめとした地域コミュニティの場の設置の重要性や協同組合の支援の重要性を訴える講演を行いました。

会場では、兵庫 JCC を構成する各協同組合の取り組みを広く知ってもらうために、パネルでの活動展示をあわせて行いました。



主催者を代表してあいさつする
兵庫県漁連 田沼政男代表理事会長



兵庫 JCC 宣言を行うコープこうべ 中野朋子理事



講演する湯浅誠氏

第103回国際協同組合デー・兵庫県記念大会 兵庫JCC宣言

私たちの社会を取り巻く情勢は目まぐるしく変化しており、特に長引く物価高は生産と消費のすべてに影響を及ぼし、暮らしを圧迫しています。国内の農水産物の生産量は労働力人口の減少や地域コミュニティの衰退により縮小しつつあり、さらにアメリカ政府の関税政策によりインフレ傾向が強まり、景気減速が懸念されています。

また、戦争・紛争の長期化による被害拡大と難民増加、世界各地で頻発する大地震や広範囲の山林火災、大規模化する台風・ハリケーンなど自然災害が甚大化し、食料難にもつながっています。

国連は2030年までに持続可能でより良い世界を目指すための目標としてSDGsを掲げ、その達成を世界に呼びかけました。今、国際社会はこの目標に向かって協同していくことがますます重要です。

また国連総会はこの間の協同組合の取り組みを評価したことから、2025年を2回目の「国際協同組合年」としました。地域に根差した助け合いの組織としての協同組合は、相互のパートナーシップをとおして、人と人、生産と消費、事業と暮らしを結び、平和で安全・安心な暮らしを実現することが期待されています。

これから更に、多くの方に協同組合の役割と力を知っていただき、そして未来を創る仲間が増えることを願っています。

本日、国際協同組合年における、第103回国際協同組合デー・兵庫県記念大会の開催にあたり、私たちは生協、農協、漁協、森林組合など兵庫県内の協同組合の仲間が、より強固なつながりによって「協同の力で未来を拓く^{ひら}」ため、一層努力していくことをここに宣言します。

2025年7月4日

兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫JCC）

IYC2025 ～協同組合への理解を広めよう～

国連は、協同組合の認知の向上と振興を広く促すために、2023年12月の総会において、2025年を国際協同組合年（IYC：International Year of Cooperatives）とすることを宣言しました。この国際協同組合年は、2012年に続いて2回目であり、国連が同じテーマで2度の国際年を設定することは珍しいことです。

国際協同組合年の設定にあたって国連は、協同組合のこれまでの様々な貢献に対する評価や今後への期待を寄せていますが、なかでも「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に向けた役割発揮を協同組合に期待しています。

このように国際的には評価が高い協同組合ですが、日本ではまだまだその存在が認知されているとは言いがたい状況です。図1は、（一社）日本協同組合連携機構（JCA）が2022年に実施した調査結果の一部です。これによると、協同組合組織自体の存在は知っているという人は一定数いることがわかりますが、協同組合がどのような事業や活動を行っているか、また、どのような理念を基にしているかを理解している人は少ないことがわかります。

このような課題に対して、国際協同組合年を契機に、協同組合間の連携をさらに進めるとともに、その活動内容を積極的に組織内外に発信し、広く周知していく必要があります。

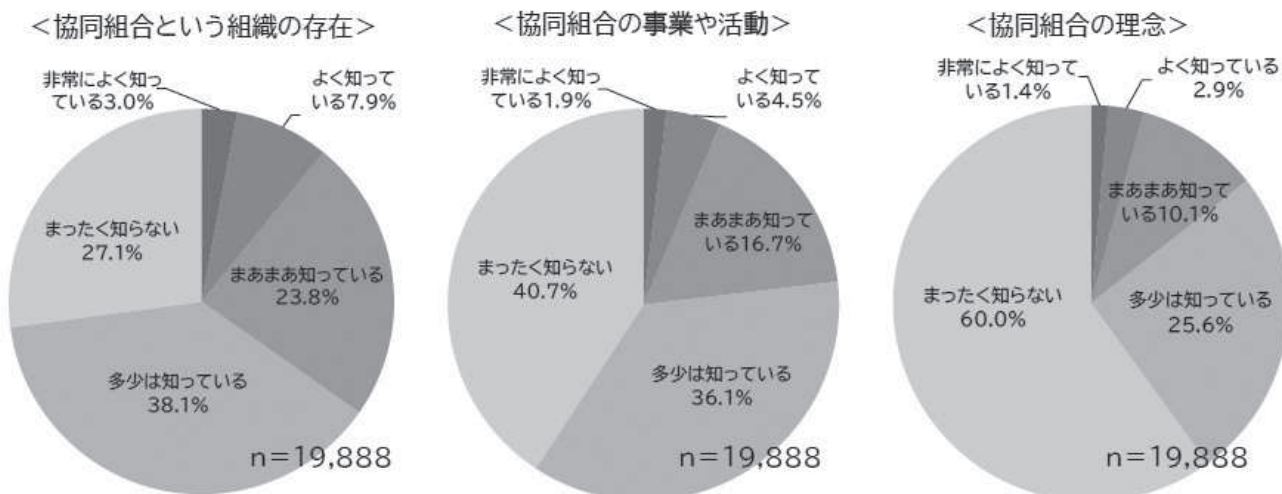
2025 国際協同組合年ロゴ（日本語版）



国際協同組合年

協同組合はよりよい世界を築きます

図1 協同組合の認知状況



出典：（一社）日本協同組合連携機構「協同組合に関する全国意識調査 2022 報告書」

第2弾 まるごと協同ツアーを開催

兵庫 JCC では、昨年の JF 坊勢・JF 兵庫漁連での水産ツアーに続いて、9月22日に JA 兵庫南にて第2回目となる「まるごと協同ツアー」を開催しました。このツアーは、若い世代に、協同組合の理念とともに、その具体的な取り組みを現地に行って知ってもらうことを目的にしています。当日は県内の大学生や各協同組合組織の若手職員、計7名が参加しました。

参加者は、兵庫 JCC を構成する生協、漁協、森林組合、JA から協同組合の理念や事業・活動内容や施設の紹介を受けた後、稲美町にある株式会社 LEAD の圃場に移動し、代表取締役の都倉貴博さんから、地域の農業の現状や農業に対するご自身の熱い思いを聞きました。その後、JA 兵庫南が運営する農産物直売所「にじいろふあ〜みん」を見学するとともに、地元の新鮮な農畜産物の買い物を行いました。

ツアーの最後には、グループに分かれ振り返りとして意見交換を行いました。そのなかでは、「普段は感じるできない農業の苦労を初めて知ることができた」「何気なくいつも買い物をしていたけれど、これからは地元のものをできるだけ選ぶように心掛ける」などの意見があり、農業者や JA の取り組みを知る良いきっかけとなりました。

兵庫 JCC では、今後もツアーを定期的に行い、協同組合組織の活動内容を発信していきます。



協同組合学習会の様子



カンントリーエレベーターについて説明している様子



都倉さんの説明の様子



グループ討議の様子

今 協同組合では —各協同組合からの報告—

JA(農協)から

いっしょに、国消国産！

JA グループでは、「国民が必要とし消費する食料は、できるだけこの国で生産する」という「国消国産」という考え方を提唱し、さまざまな広報活動を展開して4年目を迎えます。

10月16日は、1945年に国連食糧農業機関（FAO）が発足した日であり、国連はこの日を「世界食料デー」に定めています。JA グループでは、この日を「国消国産の日」と設定し、全国一斉に広報活動を進めています。本県でも、10月16日には国消国産をPRするチラシを約35,000部配布し、考え方の浸透を図りました。

また、10月1日～11月30日を「国消国産月間」として、「実りの秋！国消国産 JA 直売所キャンペーン 2025」を展開しています。「選べる！47都道府県の農畜産物・加工品コース」では、全国のJA直売所を訪問し、店内掲示のポスターの二次元コードをスマートフォンに読み込ませることでスタンプを貯めて、2つ以上貯めると47都道府県の農畜産物・加工品が14,100名様に当たります。さらに「LINEから！国産和牛・オリジナルグッズコース」では、JA直売所で1,000円（税込）以上購入したレシートを、直売所キャンペーンLINEアカウントに投稿することで、国産和牛かオリジナルグッズが500名様に当たります。

加えて、本県では冒頭ページで紹介した「祝！フォロワー1万人達成感謝をギュッと！神戸ビーフプレゼントキャンペーン」もInstagramで11月16日まで開催中です。

日本でとれたおいしくて安全・安心な農畜産物を食べて、国消国産を広めていきましょう。



JA 直売所キャンペーン 2025



直売所
キャンペーン



JA 兵庫中央会
Instagram

生協から

ひょうごまるごと健康チャレンジ 2025

「ひょうごまるごと健康チャレンジ」は、今年で8年目を迎えます。兵庫県内の医療生協が中心となり、広く健康づくりへの参加を呼びかけており、参加者が自分に合った「健康チャレンジ」を見つけて気軽に健康習慣づくりができる取り組みです。



昨年度はJA兵庫中央会からJA女性会へのシートの配布やJA兵庫厚生連の参加があり、JA女性会から280人近い応募があるなど、前年に比べ1,000人を上回る6,640人の参加がありました。

今年度も7月20日～11月30日の期間で実施しています。期間中30回チャレンジできたら「Web」か「はがき」で結果を報告！抽選で2000円分のQ.U.Oカードをプレゼントします！皆様のご参加をお待ちしています。



詳しくは
兵庫県生協連 HP



JForest(森林組合)から

「災害に強い森づくり推進大会 2025」を開催しました

9月7日、ラッセホール（神戸市）において、「災害に強い森づくり推進大会 2025」をひょうご森林林業協同組合連合会など、県内林業関係団体計13団体合同で開催しました。この大会は、兵庫県が森林の防災機能を高めるために2006年度から県下各地で進めてきた「災害に強い森づくり」事業の、翌年度以降のさらなる機能向上を目指して、兵庫県内の森林組合を中心とした林業事業体が5年に一度、一堂に会して開催しているもので、今年は約200人が参加しました。



会場の様子



大会決議案を読み上げる
森林組合職員

大会では、兵庫県より、直近過去5年間の事業実績および整備後の事業地の検証成果も発表されました。それによると、過去20年間で取り組んできた県内各地の本事業地では、台風等豪雨による大きな災害は認められなかったとのことです。

大会の最後には大会決議案が採択されました。決議案では、「災害に強い森づくり」の事業目的と効果が確認されました。一方で、近年の気候変動に起因する線状降水帯の出現や集中豪雨や台風の襲来などによる山地災害や風水害が国内で多発しており、このような激甚災害に対する防災・減災のためには、今後も森林の山地災害防止機能の向上が強く求められていることが指摘されました。さらに、その実現にむけて、林業関係者が一丸となって本事業に一層邁進し、多様で健全な森林を次代に引き継いでいきたいという旨が盛り込まれました。

【参考】災害に強い森づくり
事業検証報告書
～ダイジェスト版～
(兵庫県 HP)



JF(漁協)から

ひょうごのおさかなフェスタ開催

9月21日、ひょうごの地魚の美味さと豊かな海づくりを体感できるイベント「ひょうごのおさかなフェスタ 2025」をアリオ加古川で開催しました。

魚と触れ合える「タッチプール」をはじめ「エビ釣り」「缶バッジづくり」「ちりめんモンスター」など盛りだくさんの体験ブースに加え、子どもたちに大人気の「さかなのおにいさん かわちゃん」がスペシャルゲストとしてトークショーを行うなど、会場は大いに盛り上がりしました。

また、豊かな海づくりや森林保全など環境貢献への県民の意識啓発と生産量全国1位を誇る「兵庫のり」のブランディングを目的として、兵庫県漁連が9月20日より販売を開始した「ひょうごカーボン・オフセットのり」の使った巻きずしの振る舞いと販売も行われました。



ひょうごブルーカーボン・オフセットノリ



ひょうごブルーカーボン・
オフセットノリとは



協同組合運動 に生きる

協同組合の仲間とともに つなげる力で未来を拓く

兵庫県生活協同組合連合会 専務理事 **福井 宣昭**



兵庫県生活協同組合連合会は設立から 75 年を迎えます。この間、県内の生活協同組合や協同組合、関連団体の皆さんと取り組みを振り返りながら今後、果たすべき役割について述べたいと思います。

75 年前、1950（昭和 25）年の日本は、第二次世界大戦後の復興期から、経済成長への転換期にあたる激動の時代でした。この時期、公的年金制度は発展途上にあり、民間保険の普及もまだ十分ではありませんでした。国民の生活は不安定な部分も多く、病気、災害、失業といった事態への備えが必要であったと考えられます。生活防衛と地域コミュニティにおける相互扶助の意識が高まる中で、生活協同組合は地域でくらす人々の生活を支える重要な役割を担っていたといえます。

そのような時代の中、兵庫県生活協同組合連合会が誕生しました。当時の兵庫県市街地購買組合連合会を母体に生協法に基づいて設立され、その設立趣意書には「（前略）ここに我々は全県下に於ける生協の力を一つに結集して、共通の困難を開けるとともに生協本来の理想の下に相提携してその発展を期すべく新しい構想に基づく強力なる新連合会を結成せん」と記されています。設立登記時の会員は 9 生協でした。この設立は、個々の生協の連携を強め、組織的な運動へと発展させる大きな一歩となりました。翌年の 1951 年には全国の生協をまとめる、日本生活協同組合連合会（日本生協連）が設立されています。

その後、兵庫県下の生活協同組合および兵庫県生活協同組合連合会は、変化する時代ごとに社会が直面する課題に取り組み、その活動を通じて兵庫の地域に根を広げてきました。日用品や食料品を共同で購入・供給する購買事業を中心に、品質の良い商品を適正な価格で提供することで、消費者保護の役割も果たしました。今日に至るまで、購買生協、大学生協、医療生協、共済生協という地域になくてはならない事業と活動をすすめる会員生協とともに、協同・連帯の力で組合員や地域のくらしを支え事業を継続する取り組みをすすめています。現在、会員数は 32（生協・近畿労働金庫）会員となっており、集う組合員の総数は 266 万人（延べ人数）を超え、協同の輪は着実に県下に広がっています。

2025 年は二回目の国際協同組合年です。今回は、「協同組合はよりよい世界を築きます」がテーマです。持続可能な世界「地域社会」を実現するためには、協同組合の力は不可欠であると考えます。

私たち生協の役割は、「安心してくらし続けられる地域社会づくりに貢献する」ことです。組合員も「住み慣れたまちで安心してくらし続けたい」という願いを持っています。これからも協同組合の仲間とともに、「つなげる力で未来を拓（ひらく）～平和で持続可能な社会の実現～」に向けた取り組みをすすめてまいります。